

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鳥栖市立基里中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革に対する職員の意識が高まってきたが、一部に（時間的に）時間外在校等時間過多の傾向がある。 生徒は落ち着いた生活態度で、学習や行事に取り組んでいる状況である。現状を維持しさらに高めるために、共通理解・共通実践を継続していく。
------------------	---

2 学校教育目標	「主体的に考え 行動することができる 生徒の育成」
----------	---------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 小中一貫教育の充実 (2) 教科「日本語」の充実 (3) 教育相談の充実 (4) コミュニティ・スクールの充実
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価	
				評価	意見や提言					
●学力の向上	○生徒が主体的に学び、活動するための教育実践	○全ての教員が、各教科・各単元において「主体的・対話的で深い学び」の要素を取り入れた課題探究的な授業を展開できた。 ○校内授業公開を学年ごとに各1本行う。	・各学年1回の授業研究会を行う。 ・生徒の実態調査(事前調査・事後調査)を行う。 ・学習指導案モデルの作成と検討を行う。	A	・全教科において「主体的・対話的で深い学び」の要素を取り入れた課題探究的な授業を展開できた。 ・各学年において、校内研究に沿った(問いを設定した)研究授業と授業研究会を行うことができた。 ・前期アンケートでは「主体的な学びが行われている」ことについて、生徒の肯定的回答は97.9%であった。	A	・全教科において「主体的・対話的で深い学び」の要素を取り入れた課題探究的な授業を展開できた。 ・後期学校評価アンケートでは「主体的な学びが行われている」ことについての肯定的回答が、生徒97.2%、教職員100%、保護者92.1%であり、全てにおいて高評価であった。	A	・全国学習状況調査、県学習状況調査の結果から、良好な学習状況であると言える。加えて、校内研究の成果から、生徒が主体的に学び、活動するための教育実践がなされていることが感じられる。	研究主任 全教職員
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○すべてのクラスで「ふれあい道徳」を行う。 ○全職員が人権・同和教育の重要性を認識するため、1人1回以上研修会に参加する。	・学年や学級の実情に合わせて、道徳教材の研究を継続的にを行い、情報交換をする。 ・担当を中心に各研修会の案内と参加の呼びかけを行い、参加・実施に努める。	A	・全クラスにおいて、5月に「ふれあい道徳」を実施することができた。 ・人権・同和教育研修会には、担当者だけでなく若手の教員を含め全職員が参加し研修を積み重ねることができた。 ・前期アンケートでは「豊かな心が身についているか」について、生徒の肯定的回答は97.9%であった。	A	・各学年で、道徳の授業を担任だけで行うことなく、学年の教員がすべて関わりながら行うことができた。 ・後期アンケートでは「豊かな心が身についているか」についての肯定的回答が、生徒95.0%、教職員100%、保護者91.1%であり、全てにおいて高評価であった。	A	・心の教育は、大変重要なもので、担任だけでなく、色々な先生方の道徳の授業を受けられることは、子供たちの成長を促すことに役立っていると思われる。今後は、保護者・家庭・地域・PTAとも連携していけるよう取り組んでほしい。	道徳主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○月1回、生活アンケートを実施する。 ○QUアンケートの「ほかにされた」の項目の否定的意見が80%以上。	・「いじめ・いのちを考える日」に「生活アンケート」を行い、生徒の実態を把握し、いじめの早期発見・早期解決につなげる。	A	・毎月「生活アンケート」を確実に実施し、些細な事案にもいち早く、きめ細やかに対応することができた。 ・積極的にいじめ認知を行い、速やかな解決・解消を図ることができた。 ・前期アンケートでは「いじめの早期発見・早期解決」について、生徒の肯定的回答は92.6%であった。	A	・毎月「生活アンケート」を確実に実施し、些細な事案にもいち早くきめ細やかに対応することができた。積極的にいじめ認知を行い、速やかな解決・解消を図ることができた。 ・後期アンケートでは「いじめの早期発見・早期解決」についての肯定的回答が、生徒90.4%、教職員95.2%、保護者91.1%であり、全てにおいて高評価であった。	A	・いじめについて早期発見し、適切な対応がなされている。また、早期解決を図り、3か月後の解消と丁寧な対応がなされている。これからも取り組みを継続して行ってほしい。	生徒指導担当
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上。	・定期的に学級・学年通信を発行する。 ・1、2学期に教育相談を実施する。 ・高校調べや職業体験等を生徒の発達段階に応じて行う。	B	・前期アンケートでは、「あなたの良いところを認めてくれている先生がいる」について、生徒の肯定的回答は92.6%であった。 ・しかし、「将来の夢や目標を持っている」について、生徒の肯定的回答は69.3%となっており目標を下回った。今後、効果的な進路指導の充実が求められる。	A	・後期アンケートでは「あなたの良いところを認めてくれている先生がいる」についての肯定的回答が、生徒90.4%、教職員90.5%、保護者91.1%であり、全てにおいて高評価であった。 ・また「将来の夢や目標を持っている」について、生徒の肯定的回答が81.0%と大きく向上した。	A	・前期アンケートから後期アンケートと、大きな変化が見られた。これは、数多くの進路講演会等を仕組むなどの取り組みが功を奏したと言えるだろう。これからも取り組みを継続して行ってほしい。	進路指導担当
	②「望ましい生活習慣の形成」	○「早寝・早起きを心がけているか」のアンケート結果の肯定的意見が85%以上。 ○「毎日朝食をとっている」のアンケート結果の肯定的意見が85%以上。	・定期的に、アンケートを実施し、「早寝・早起き・朝ごはん」の実態把握し、啓発・指導を行う。	A	・毎朝の挨拶運動では、全員から元気な挨拶が返ってきている。また、登校時間も早いので、望ましい生活習慣が前期アンケートでは、「生活習慣(毎日朝食をとったり、早寝・早起きができている)」について、生徒の肯定的回答は87.8%であった。	A	・後期アンケートでは「生活習慣(毎日朝食をとったり、早寝・早起きができている)」についての肯定的回答が、生徒86.5%であり、前期・後期共に目標を達成できた。	A	・アンケートの結果からは、生活リズムが確立している生徒が多いと言える。しかし、一部(夜更かしをしているのではないかと)心配になる生徒もいる。今後は家庭との連携を図ってほしい。	教育相談担当
●特別支援教育の充実	④「安全に関する資質・能力の育成」	○児童生徒の加害交通事故を0(ゼロ)にする。 ○交通安全・防犯・防災に関する取組を年8回以上行う。	・1学期に交通教室と自転車点検を行い、生徒の意識を高める。 ・防犯に関する講演会に生徒だけでなく保護者の方も招待して行う。	A	・交通教室と自転車点検は、5月に行うことができた。特に自転車点検は、PTAの取組として、地域の方に協力してもらい行うことができたので、交通安全について保護者にも意識してもらおうことができた。	A	・生徒の交通安全事故は0(ゼロ)であった。 ・交通安全、防犯、防災に関する取組を、それぞれ講師を招聘して実施し(計3回)、安全について自分事として捉えさせることができた。	A	・交通安全、防犯、防災に関する取組を、それぞれ講師を招聘して実施することができた。生徒の交通安全事故が0(ゼロ)であったことが何よりだった。	安全担当
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	A	・4月から10月までの時間外勤務において、80時間以上は0名であった。 ・教職員の職能向上と「退勤時間申告制」により、昨年度と比較して、毎月の時間外在校等時間を大きく減少させることができた。	B	・1年間を通して、月80時間以上は0名であった。 ・昨年度と比較して、毎月の時間外在校等時間を大きく減少させることができた。(エリア1の成果を挙げることができた。) ・しかし、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上は達成できなかった。	A	・退勤時間申告制を導入し、昨年度より改善がなされ、時間外勤務が大幅に減少している。また、学校評価アンケートや市ストレスチェックで、同僚性の高さが顕著であるため「多忙感」が減少したと推察できる。	教頭
○インクルーシブ教育の推進	○すべての教室でユニバーサルデザインを意識した環境づくりを行う。 ○特別支援学級の保護者に対して、学期に1度は面談を行う。	・板書や掲示物等を各クラスの生徒の特性に合わせて工夫をする。 ・特別支援学級の保護者に、定期的に面談を実施する。	A	・全クラスにおいて、ユニバーサルデザインを意識した環境づくりができた。板書や掲示物等を各クラスの生徒の特性に合わせて工夫することができた。 ・夏季休業中に、インクルーシブ教育研修会を実施し、全職員による共通理解・共通実践を行うことができた。	A	・後期も、すべてのクラスにおいて、板書や掲示物等を各クラスの生徒の特性に合わせて工夫をすることができた。 ・特別支援学級の保護者に対して、学期に1度は面談を行うことができた。	A	・気になる生徒について、中学校になって非常に落ち着いたという事例を聞いた。これは特別支援教育が適切に行われている証だと言える。また、教室環境もきちんと整理されている。	A	特別支援コーディネーター

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価	
				評価	意見や提言					
○小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・授業参観日に、地域の文化や人材を生かした体験学習を積極的に行う。 ・小中学校での乗り入れ授業や交流活動を積極的に行う。	A	・全学年とも教科「日本語」の授業において、特別非常勤講師招聘し、日本文化について地域の専門家から、充実した指導を受けることができた。 ・9月には5・7交流を行い、11月には6・8交流を行うことができた。	A	教科「日本語」の授業において、1年生は礼儀作法、2年生は和装・和食作法、3年生は茶道の専門家からそれぞれ指導を受けることができた。 ・今年度は、体育(体づくり)、美術(彫刻)、技術(小刀)、英語(T2)において乗り入れ授業を行うことができた。	A	・今年度も5・7交流や、6・8交流などを積極的に進めている。加えて、4教科の乗り入れ授業を行っており非常に有益である。また、教科「日本語」については、特別非常勤講師を招聘した取り組みが有意義だと考える。	教頭 学年主任
○開かれた学校づくり	○地域と連携した学校づくりの推進	○保護者、地域の方の学校行事への参加者増を目指す。 ○地域の人材を生かした授業や講演会を2回以上設定する。	・各種たよりや通信、HP、メール等を活用し、行事等の情報の発信を行う。 ・コミュニティ・スクールの運営を通し各種団体、地域等に協力を依頼し、教育活動の活性化を図る。	A	・学校運営協議会を開催し、地域と連携を図りながら学校運営を進めることができた。 ・鳥栖市教育の日を開催した「大人としゃべり場」では、150人以上の地域の方々と全校生徒の交流をすることができた。	A	・基里地区餅つき大会に司会4名が役員として参加し、多数の中学生・保護者が参加した。 ・基里地区文化祭に司会4名・受付2名が役員として参加し、生徒会が募金のボランティア活動を行うことができた。	A	・6月に行った「大人としゃべり場」では、今年度も充実した取り組みを行うことができた。参加された地域の方からも称賛の声をいただいた。 ・生徒に、地域行事への役員参加の機会(出番)を頂けたことから、中学生の参加が増え	教頭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、全体的に充実した取り組みを行うことができ、特に学校関係者評価では非常に高い評価を得ることができた。 本校の特長である「主体的な学び」「主体的な活動」「小中一貫教育」「開かれた学校づくり」について、次年度も継続して実践していきたい。 次年度も、夢・目標を持つための取り組み(進路学習)や、教員の働き方改革への取り組みを継続し、実践していきたい。
----------------	--